

モノにカネをつぎ込まないミニマリストが増えている 重要なのはコト？

生活に本当に必要なモノはどれだけあるだろう。身の回りにあるモノを眺めてみると、「要る」「要らない」「たまには必要」が見えてくる。要るモノは頻度高く使用するモノであり、身の回りに置いておくことが多い。いらぬモノはその逆であり、どこか目が付かないところにしまい込まれている。その結果、あることすら認識ができないことになり、結果的には忘れ去られる運命にある。

よく使用するモノは、価格の安いモノから高いモノまでさまざまである。安いからといっても非常に重宝するモノも多い。逆に高価ではあるが、その使用頻度が極端に少なく、結果的にその存在が忘れ去られるモノもある。最近とみに見なくなった晴れ着もこの類に入る。

新聞記事に言うミニマリストとは、このあたりの事情を合理的に解釈し具体的に実行できる人だろう。自分にとって何が重要かをわきまえている。そして、必要なモノだけを身近におくことになるが、極限まで行くと記事にあるような形になる。

日本経済新聞 2020.1.9



モノよりも経験を優先しフィリピンに移り住んだ佐々木典士さん
(19年12月)＝小笠原之樹撮影

逆境の資本主義

—8—

うつろう欲望 どうつかむ

縮む消費、ミニマリズム

消費がしぼみ、成長は停滞する。米ミニマリストの草分け、ジョシュア・ベックワース氏は「ミニマリズムの所有欲が乏しい」と言い切る。欲望の芽先が変わったのだという。東京都内の会員制飲食店「シックスカリー」。30代を中心に人気を集め、開店から1年あまりで会員数は1000人に膨らんだ。19年秋に2号店を開店するなど、運営規模が拡大している。運営会社の高木新平代表は、単にカリーを変えるのではなく、人と人が交差する一歩一歩の理由を語る。

「世界を旅する」が100%どころか、「自宅購入する」も20%。月収38000円の会費は割高にも見えるが、資本主義経済の成長を支えた大企業・大消費。人に会いに来ている。会社で会員の北野昌明さん(31)は満足げに話す。会社員になると店の運営に意見したり、「1日店長」を担ったりできる。会員はカリーを媒介にした交流や体験に価値を見出している。

自動車でシエラリングカリーが1台増えると、乗用車販売が2台減るとされ、20年後には世界の新車販売を200万台下押しするとの試算がある。個人消費の影も大きく、ニ探さなくなってきた。需要不足による長期停産を後け出す品は、日本の家庭に眠る不用品の総額は37兆円。市場に出回れば、新品需要が伸びかねない。

総量は変わらず
デジタルを使いこなし、モノの所有欲が乏しいミニマリストが存在感を均すほど

スマートフォンでQRコードを読み込み、新聞や雑誌を盛り込んだ詳細版をご覧ください。

米国の経済学者、ソイスティン・ウェブレは1899年の著作「有閑階級の理論」で、資本主義経済における消費の原動力は人々の見栄や羨望にあると説いた。工業化が進むと、高級品を肩並べひらかすための誇示の消費が増えるという。だがいま、若者たちはモノを持たない質素な生活を選ぶ始めている。

「モノや家に縛られずに暮らしたい」。青く空を渡る海が広がるフィリピン中部のドゥマゲテ。昨年9月に日本から移り住んだ生出版社勤務、佐々木典士さん(40)の引越した荷物(2つ)のスイツケースは数センチのミニマリズム。いまの主なお

金の使い道は旅行だ。昨年も世界との南米旅行に約100万円を費やした。ツッカー氏は「ミニマリストの所有欲が乏しい」と言い切る。欲望の芽先が変わったのだという。東京都内の会員制飲食店「シックスカリー」。30代を中心に人気を集め、開店から1年あまりで会員数は1000人に膨らんだ。19年秋に2号店を開店するなど、運営規模が拡大している。運営会社の高木新平代表は、単にカリーを変えるのではなく、人と人が交差する一歩一歩の理由を語る。

「世界を旅する」が100%どころか、「自宅購入する」も20%。月収38000円の会費は割高にも見えるが、資本主義経済の成長を支えた大企業・大消費。人に会いに来ている。会社で会員の北野昌明さん(31)は満足げに話す。会社員になると店の運営に意見したり、「1日店長」を担ったりできる。会員はカリーを媒介にした交流や体験に価値を見出している。

自動車でシエラリングカリーが1台増えると、乗用車販売が2台減るとされ、20年後には世界の新車販売を200万台下押しするとの試算がある。個人消費の影も大きく、ニ探さなくなってきた。需要不足による長期停産を後け出す品は、日本の家庭に眠る不用品の総額は37兆円。市場に出回れば、新品需要が伸びかねない。

総量は変わらず
デジタルを使いこなし、モノの所有欲が乏しいミニマリストが存在感を均すほど

モノがない時代は、モノを所有していることがステータスであった。人が持っていないモノを私が持っていることがステータスであった。しかし今のようにモノがあふれる時代においては、その気になれば誰でもある程度のモノならば手に入れることができるようになった

た。また、大概のモノであればリースなりシェアリングでその利便性を利用できるようになった。世の中に借りられないモノはあるだろうか。シェアリングできないモノはあるだろうか。心の中ではついつい何がシェアリングできるかを極限まで考えてしまう。

自分の描いた人生を生きるために何が必要か。手許に必要なモノは何で、シェアリングできるモノは何か。そして以前は手元に必要であったがその役割を終えたモノは何か。モノと比べられるのがコトである。コトについては、計画的にいつ、どのように資金を投入するか。自分自身のマネジメントが問われる世の中となった。すべてが自己責任である。

ミニマリスト (Wikipedia)

最低限度の物だけを持って生活するライフスタイル

「断捨離」を参照

断捨離は、「もったいない」という固定観念に凝り固まってしまった心を、ヨーガの行法である断行（だんぎょう）・捨行（しゃぎょう）・離行（りぎょう）を応用し、

断：入ってくるいらぬ物を断つ。

捨：家にずっとあるいらぬ物を捨てる。

離：物への執着から離れる。

として不要な物を断ち、捨てることで、物への執着から離れ、自身で作り出している重荷からの解放を図り、身軽で快適な生活と人生を手に入れることが目的である。ヨーガの行法が元になっている為、単なる片付けとは異なるものとされている。

ヨーガ (梵: योग (Yoga_pronunciation.ogg 聞く), yoga) は、古代インド発祥の伝統的な宗教的行法で、心身を鍛錬によって制御し、精神を統一して古代インドの人生究極の目標である輪廻からの「解脱 (モークシャ)」に至ろうとするものである。

他にこのようなミニマリストもある・

ミニマリスト (英語表記) minimalist (コトバンク)

ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説

最小限綱領派と訳す。最小限度の要求を掲げる社会主義者の一派をいう。かつてロシア社会革命党内の妥協的な穏健分子がこう呼ばれた。またこの反対にすべてを要求し、決して妥協しようとしぬ一派がマキシマリスト maximalist (最大限綱領派) と呼ばれた。